

## 看護系教員の性のイメージ（とらえ方）と 性の臨床場面での対応に関する分析

「高齢者の性」に関する研究（5）

渡 邊 典 子<sup>1)</sup>， 水 戸 美津子<sup>2)</sup>

新潟県立看護短期大学<sup>1)</sup>， 山梨県立看護大学<sup>2)</sup>

Analysis concerning the representation of nurse teachers about sexuality  
and on their attitude towards sexuality during clinical practice.

A Study of Elderly Sexuality（5）

Noriko WATANABE<sup>1)</sup>， Mitsuko MITO<sup>2)</sup>

Niigata College of Nursing<sup>1)</sup>， Yamanashi College of Nursing<sup>2)</sup>

**Summary** The purpose of this study is to indicate how the nurse teachers in charge of education about basic Nursing comprehend sexuality and the actual state of nurses' attitude toward sexuality, in clinical practice.

The subjects are 249 Nurse teachers aged 30 to 59, in charge of Nursing for Elderly people or Nursing for Adult at the educational institutions of basic Nursing.

The results are as follows.

- ① There's a difference of quality between each sexuality and Elderly sexuality.
- ② The younger generation teachers have more progressive ideas about the concept of sexuality.  
On the other hand, the older generation are influenced by tradition and accumulation of experiences and knowledge.
- ③ It is indicated that one's attitude towards representation about sexuality is influenced by one's representation about personal history of married life, living with elderly people, keeping company to elderly people and the concept of sexuality.
- ④ The attitude of each nurse towards sexuality depends on her personality and background.  
Consequently, this study indicates the necessity and importance of each teacher's right knowledge and view of sexuality.

**要 約** 本研究の目的は、看護基礎教育担当教員の性のとらえ方と性の臨床場面での対応の実態を明らかにすることである。対象は、看護基礎教育の場で老年看護学または成人看護学を担当している 30 歳から 59 歳までの大学・短大・看護学校教員 249 名である。結果として以下のことが明らかとなった。①「自分自身の性」と「高齢者の性」のとらえ方には質的相違がみられた。②「性一般」のとらえ方は、若い世代ほど進歩的であり、年代が高くなるにつれて伝統的文化の影響と経験と知識の積み重ねによって保守的にとらえる者と保守的にも進歩的にもとらえる者の両方が増加した。③性的遭遇場面の受けとめ方は、結婚歴、高齢者との同居・交流、「性一般」のとらえ方による影響が大きいことが示唆された。④性的遭遇場面の対処法は、個人的対応がほとんどであり、教員個々の性の正しい知識、見識の必要性と重要さが示唆された。

**Key words** 性 (Sex)

高齢者の性 (Elderly Sexuality)

セクシュアリティ (Sexuality)

看護教員 (Nurse Teachers)

## はじめに

現代社会が、少子高齢時代であることは周知の事実である。平均寿命の伸びによる高齢化は、高齢者人口の増大と長い余生を意味する。この長い余生を充実して生きるために、老年期の Q.O.L が問われている。

老年期の Q.O.L を考える要素として、心身の健康・経済的安定・安住の住宅のほかに、家族の愛情や趣味・仕事があること、友人がいること、何らかの役割があること、適当な性的満足があることなどが重要である<sup>1)</sup>。

高齢者は受療率が高く、いったん罹病するとその罹病期間も長いことから、長期の医療機関での生活を余儀なくさせられ、Q.O.L の低下をまねくことになる。なかでも性に関することは臨床場面でしばしば対応に苦慮するにもかかわらず実際には無視されがちである。さらに「高齢者の性」の問題となると、一般の人々に比べて性医学的な知識を持つ看護職ですらタブー視する傾向がある。

このような問題意識から我々は、これまで「高齢者の性」に関して、特定の集団を対象にした調査研究や文献研究を行い、1997 年には全国の看護職及び介護職およそ 2,700 名を対象に「高齢者の性」に関する意識と対応について調査を行い「高齢者の性」に関する研究(3)<sup>2)</sup>を報告した。そこでは、①高齢者を 70 歳以上ととらえる人が半数以上であった。これは看護職が病気や障害を持つ高齢者のケアはもちろんのこと、元気な高齢者と接する機会が多いこと、そして一般社会の老人の定義が 65 歳から変化しつつあることが影響していると考えられた。②高齢者に対するイメージは、加齢にともなって身体的変化が生じるという事実を反映した結果であった。③「高齢者の性」に関し、すべての年代を通して夫婦という単位で性をとらえていた。④臨床の場で性的欲求を表現している場面に遭遇した者や会話の中で性的な事柄が話題となったことがある者は 50%を超え、その時の対応は、個人的対応がほとんどであった。⑤「高齢者の性」に関する学習の機会はほとんどなかった。⑥「性一般」に関する考え方は、時代状況に大きく影響をうける、ということが明らかとなった。

上記の調査対象者の中で、看護基礎教育で成人看護学または老人看護学を担当する教員については、①高齢者に対するイメージとして身体的変化(死が身近にある存在、援助を必要とする存在、身体の衰

えが目立つ)に加え“思慮深い”“趣味活動に積極的”と回答している者が 50%以上いた、②4つの性の遭遇場面(1.性的欲求を表現している、2.性的な事柄が話題になった、3.診察の介助時に自分のほうが羞恥心を感じた、4.性の不安や悩みを相談された)では、「1.性的欲求を表現している」場面を除いた3つの場面においていずれも病院・老人福祉施設の職員と比べ高く、その対応は個人的対応がほとんどであった、③「高齢者の性」のとりえ方は、病院・老人福祉施設職員と比べ“親密さのための性”“愛のための性”“コミュニケーションのための性”“人間関係のための性”がかなり高い割合を示していた、④性に関する考え方は、伝統的なとりえ方をしている者が他の施設職員に比べ多かったという傾向が明らかとなった。

以上の研究をもとに本論文では、「高齢者の性」に関する研究(3)での調査データのうち看護基礎教育担当教員の性のとりえ方と、性の遭遇場面での対応に関してさらに詳細に分析し、教育にあたっている者の性のとりえ方と対応の実態を明らかにすることを目的とする。

看護教育において、平成2年度のカリキュラム改正でセクシュアリティに関する講義がもりこまれた<sup>3)</sup>ことは、看護におけるセクシュアリティケアの重要性の顕在化といえる。すなわち、平成2年のカリキュラム改正前の看護基礎教育では、母性看護学を除き性に関して正課として位置づけられた講義はなく、この改正後「精神保健」の中に性及びセクシュアリティに関する内容が加えられたのである。看護教育現場にいる教員のセクシュアリティのとりえ方は、セクシュアリティに関する教育の根本に位置づけられる。ましてや臨床場面、すなわち臨床実習場面での教員の性のとりえ方や対応は、学生へ影響を与える。ケアに携わる人々が高齢者や「高齢者の性」に関してもっているある種の偏見を是正するためにも、看護教育の現場にいる教員の高齢者へのイメージと性に対するとりえ方・対応に関して検討することは、セクシュアリティを尊重したケアの教育を考えるという視点で意義あることと考える。

## 1. 研究方法

### 1. 調査対象者

調査対象者は、「高齢者の性」に関する研究(3)の調査のうち看護基礎教育の場で老年(老人)看護

学または成人看護学を担当している 269 名の教員のうち 30 歳から 59 歳までの大学・短大 86 名、看護学校 163 名、計 249 名とした。「高齢者の性」に関する研究（3）の教員のみの調査対象者のうち 24 歳～29 歳は 4 名、60 歳～72 歳は 11 名いたが層別での比較をするのには対象数が少なく不適当であると判断し、分析対象者から除外した。なお「高齢者の性」（3）の分析対象者総数は、2,692 名であった。

## II. 研究結果

### 1. 分析対象者の概要

分析対象者の概要は、表 1 に示した。年齢は、30 歳から 59 歳までであり、30～34 歳（39 名：15.7%）、35～39 歳（46 名：18.5%）、40～44 歳（51 名：20.5%）、45～49 歳（45 名：18.1%）、50～54 歳（36 名：14.5%）、55～59 歳（32 名：12.9%）であった。対象者全体の平均年齢は、43.8 歳（SD：7.9）であった。

現在は教員であるが、取得免許としては、看護婦（士）244 名（98.4%）、准看護婦（士）6 名（2.4%）、保健婦（士）36 名（14.5%）、助産婦 25 名（10.0%）、その他 16 名（6.4%）であった。

結婚歴“あり”は、176 名（70.7%）、高齢者との同居“あり”は、163 名（65.5%）といずれも 7 割近くの者が結婚歴があり、高齢者と同居していた。

### 2. 高齢者に対するイメージ

高齢者については 70 歳以上と考える者が、124 名

表1 分析対象者の概要 n=249

性別	人数 (%)	
	男性	女性
年齢	30～34歳	39(15.7)
	35～39歳	46(18.5)
	40～44歳	51(20.5)
	45～49歳	45(18.1)
	50～54歳	36(14.5)
	55～59歳	32(12.9)
	平均年齢 (SD)	43.8 (7.9)
取得免許	看護婦（士）	244(98.4)
	准看護婦（士）	6(2.4)
	保健婦（士）	36(14.5)
	助産婦（士）	25(10.0)
	その他	16(6.4)
結婚歴	あり	176(70.7)
	なし	70(28.1)
	無回答	3(1.2)
同居の高齢者	あり	163(65.5)
	なし	84(33.7)
	無回答	2(0.8)

(49.8%) であった。

高齢者をどのように感じるかでは（表 2）、教員の半数以上がイメージしているプラスの項目（▲印）

表2 「高齢者」に対するイメージ

項目	人数 (%)	平均点 (SD)
元気で力強い	75(30.4)	
元気がなく弱々しい	45(18.2)	2.8(0.8)
どちらともいえない	127(51.4)	
明るい	82(33.2)	
暗い	40(16.2)	2.8(0.8)
どちらともいえない	125(50.6)	
思慮深い	▲176(71.0)	
考えが浅い	9(3.6)	2.1(0.8)
どちらともいえない	63(25.4)	
何事にも柔軟なことが多い	31(12.5)	
何事にも一つのことに固執しやすい	▼133(53.6)	3.5(0.9)
どちらともいえない	84(33.9)	
豊富な人生経験	▲210(84.6)	
人生経験が乏しい	10(4.0)	1.6(0.9)
どちらともいえない	28(11.3)	
楽観的	50(20.2)	
悲観的	75(30.3)	3.1(0.8)
どちらともいえない	122(49.4)	
死を感じさせない存在	29(11.7)	
死が身近にある存在	▼159(64.1)	3.7(1.0)
どちらともいえない	60(24.2)	
かわいらしい	105(42.9)	
にくらしい	18(7.3)	2.6(0.7)
どちらともいえない	122(49.8)	
清潔	40(16.2)	
不潔	56(23.7)	3.1(0.7)
どちらともいえない	151(61.1)	
健康的	34(13.7)	
病気がち	108(43.5)	3.3(0.8)
どちらともいえない	106(42.7)	
援助を必要としない存在	23(9.3)	
援助を必要とする存在	▼139(56.1)	3.5(0.8)
どちらともいえない	86(34.7)	
趣味活動に積極的	106(42.7)	
趣味活動に消極的	40(16.1)	2.7(0.8)
どちらともいえない	102(41.1)	
活発で生き生きした存在	71(28.6)	
孤独で淋しい存在	63(25.4)	3.0(0.8)
どちらともいえない	114(46.0)	
身体的に特に変わりはない	9(3.6)	
身体の衰えが目立つ	▼197(79.4)	4.0(0.8)
どちらともいえない	42(16.9)	
精神・心理機能に特に変わりはない	75(30.2)	
精神・心理機能の衰えが目立つ	98(39.6)	3.1(1.0)
どちらともいえない	75(30.2)	
家族の役に立つ	▲137(55.4)	
家族の迷惑	20(8.1)	2.4(0.8)
どちらともいえない	90(36.4)	
自立している存在	99(40.0)	
何事にも頼る存在	46(18.5)	2.7(0.9)
どちらともいえない	103(41.5)	

注) ① 5段階法で回答。平均値が大きいほどマイナスイメージが強い。

② ▲半数以上の者がイメージ(プラス)

③ ▼半数以上の者がイメージ(マイナス)

表3「自分自身の性」と「高齢者の性」のとりえ方

項目	自分自身の性 (%)	高齢者の性 (%)
快楽としての性	48.6	28.5
緊張を解放するための性	25.7	23.8
交換としての性	3.6	2.8
商品としての性	4.4	2.0
愛のための性	78.3	55.8
伴侶としての性	49.4	50.6
義務・責任としての性	13.3	4.8
武器または報酬としての性	3.2	0.4
レクリエーションとしての性	11.2	12.9
性役割を確かめるための性	19.3	17.7
自尊心や社会的地位のための性	8.0	9.6
親密さのための性	67.1	69.9
コミュニケーションのための性	54.2	61.4
夫婦関係のための性	72.3	58.2
人間関係のための性	43.0	44.2
その他	4.8	2.8

として“思慮深い”“豊富な人生経験”“家族の役に立つ”であり、マイナスの項目（▼印）として“何事にも一つのことに固執しやすい”“死が身近にある存在”“援助を必要とする存在”“身体の衰えが目立つ”であった。

### 3. 「性」のとりえ方

#### (1) 「自分自身の性」のとりえ方

表3から教員の半数以上が「自分自身の性」としてとらえているのは、“愛のための性”（78.3%），“夫婦関係のための性”（72.3%），“親密さのための性”（67.1%），“コミュニケーションのための性”（54.2%）の4項目であった。

これを年齢別でみると（図1），ほとんどの項目について50～54歳ではいったん減少し，55～59歳で上昇しどの年齢より高い割合を示していた。また年齢を30代，40代，50代と分けて関係をみたところ，“伴侶としての性”は，40代と50代は30代に比べ多かった（ $p<0.01$ ）。

“親密さのための性”は，30代が50代に比べ多かった（ $p<0.01$ ）。

高齢者との同居の有無別では，“コミュニケーションのための性”は同居している者の方がしていない者より多かった（ $p<0.05$ ）。

結婚歴について同様にみると，“夫婦関係のための性”のみにおいて結婚歴のある者のほうがない者より高くとらえていた（ $p<0.01$ ）。

#### (2) 「高齢者の性」のとりえ方

表3から教員の半数以上が「高齢者の性」としてとらえているのは，“親密さのための性”（69.9%），“コミュニケーションのための性”（61.4%），“夫婦関係のための性”（58.2%），“愛のための性”（55.8%），“伴侶としての性”（50.6%）であった。

「高齢者の性」のとりえ方についても年齢別，高齢者との同居別，結婚歴の有無別に関係性をみた。高齢者との同居の有無別と年齢別について「高齢者の性」のとりえかたについて検討したが，特に関係性はみられなかった。結婚歴の有無別では，“愛のための性”は結婚歴のある者の方がいない者より多かった（ $p<0.05$ ）。

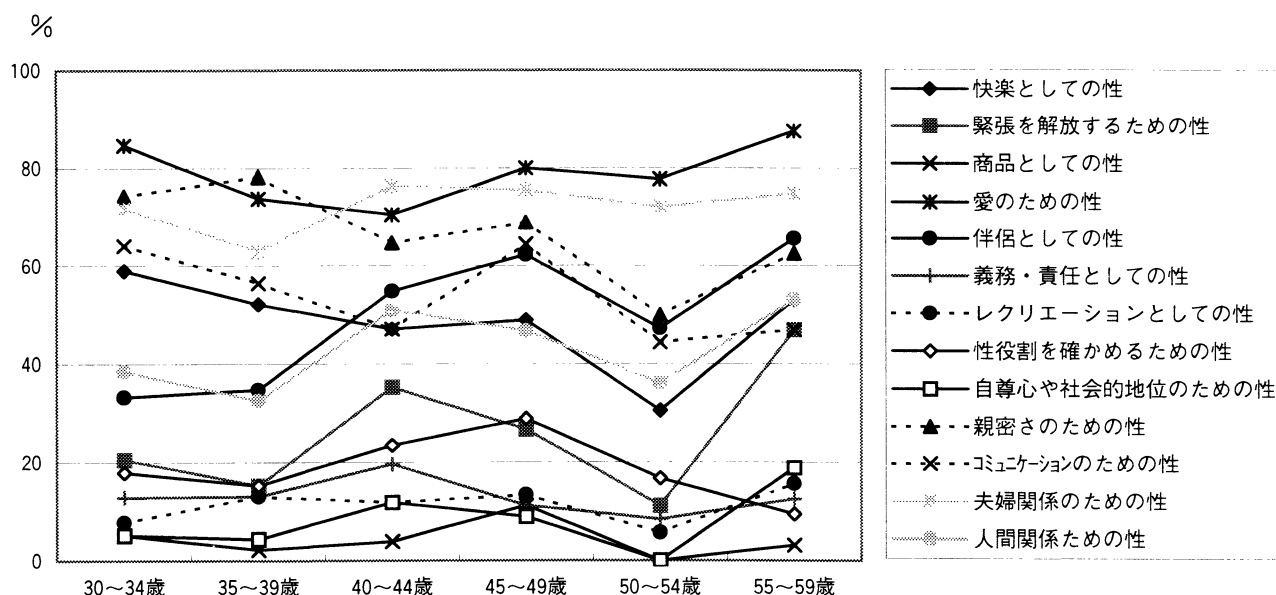


図1 年齢別「自分自身の性」のとりえ方

表4 「性一般」のとらえ方（文化的影響）

項目	人数 (%)
セックスは出産が目的ではない（子供を産むことが目的ではない）	152(61.0)
セックスは食べたり寝たりと同様、自然な行為である	134(53.8)
婚前交渉はお互いが愛し合っていれば構わない	112(45.0)
婚前交渉はお互いが納得していれば構わない	103(41.4)
結婚するまではセックスは望ましくない	80(32.1)
結婚と恋愛は別のものである	71(28.5)
性については口にしてはいけない	51(20.5)
女性から求めるのは恥ずかしいことだ	31(12.4)
老年になったら性欲はなくなる	18( 7.2)
いつでも夫の性的な求めに従うのが妻の心得だ	8( 3.2)
性は子供を産むための行為であり、快樂のためにあるのではない	4( 1.6)
月経閉止後は性生活をやめるのが自然だ	3( 1.2)
その他	19( 7.6)

### （3）「性一般」のとらえ方

「性一般」のとらえ方は表4より“セックスは出産が目的ではない（子供を産むことが目的ではない）”（61%），“セックスは食べたり寝たりと同様、自然な行為である”（53.8%），“婚前交渉はお互いが愛し合っていれば構わない”（45.0%），“婚前交渉はお互いが納得していれば構わない”（41.4%），“結婚するまでセックスは望ましくない”（32.1%），“結婚と恋愛は別のものである”（28.5%），“性については口にしてはいけない”（20.5%），“女性から求めるのは恥ずかしいことだ”（12.4%）という順であった。

このそれぞれのとらえ方を30代、40代、50代に分

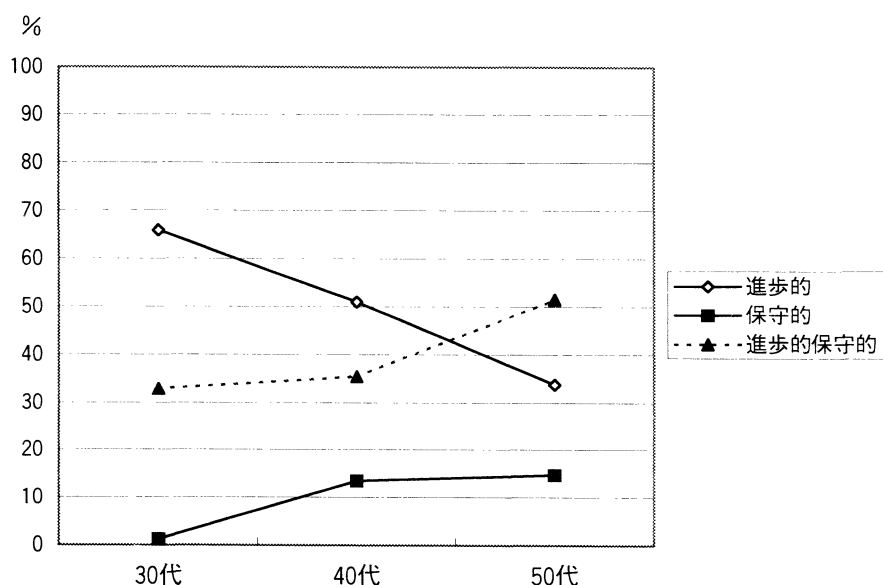


図2 年代別「性一般」のとらえ方

けて検討した結果，“結婚するまでセックスは望ましくない”は、50代が30代、40代に比べ多かった（ $p<0.01$ ）。“性については口にしてはいけない”は、50代が30代に比べ多く（ $p<0.05$ ），“老年になったら性欲はなくなる”は50代が40代より多かった（ $p<0.01$ ）。“セックスは食べたり寝たりと同様、自然な行為である”と“結婚と恋愛は別のものである”は、30代より50代が多く（前者  $p<0.01$ ，後者  $p<0.05$ ），“婚前交渉はお互いが愛し合っていれば構わない”と“婚前交渉はお互いが納得していれば構わない”は、30代が40代、50代に比べ多かった（前者、後者とも  $p<0.01$ ）。また，“セックスは出産が目的ではない（子供を産むことが目的ではない）”は、30代が40代より多かった（ $p<0.05$ ）。

高齢者との同居の有無別では，“結婚するまでセックスは望ましくない”，“セックスは食べたり寝たりと同様、自然な行為である”は、高齢者と同居している者の方がいない者より多かった（前者  $p<0.01$ ，後者  $p<0.05$ ）。

次に、この「性一般」に対するとらえ方について2群に分けて検討した。特に性欲やセックスに対する日本の伝統的な文化の影響を反映しているとらえ方を《保守的》とし、それに反し解放的で自由で伝統的文化に影響されていないとらえ方を《進歩的》と分類し、年代による傾向をみた。進歩的なとらえ方として“セックスは出産が目的ではない”“セックスは食べたり寝たりと同様、自然な行為である”“婚前

交渉はお互いが愛し合っていれば構わない”“婚前交渉はお互いが納得していれば構わない”“結婚と恋愛は別のものである”とした。また保守的なとらえ方として“結婚するまでセックスは望ましくない”

“性については口にしてはいけない”“女性から求めるのは恥ずかしいことだ”“老年になったら性欲はなくなる”“いつでも夫の性的な求めに従うのが妻の心得だ”“性は子供を産むための行為であり、快樂のためにあるのではない”“月経閉止後は性生活をやめるのが当然だ”とした。

図2より「一般の性」に対して保守的にのみとらえているのは、30代では1名(1.2%)、40代では13名(13.5%)、50代では10名(14.7%)であった。反対に進歩的にのみとらえているのは、30代では56名(65.9%)、40代では49名(51.0%)、50代では23名(33.8%)であった。次に保守的にも進歩的にもとらえている者は、30代で28名(32.9%)、40代で34名(35.5%)、50代で35名(51.5%)であった。その中で保守的な項目数が進歩的な項目数より多いのは、30代では3名(3.5%)、40代では5名(5.2%)、50代では10名(14.7%)であった。

これらから「性一般」に対して若い年代ほど進歩的にとらえ、30代より40代、40代より50代と年代が高くなるにしたがって保守的にとらえていた。しかし一方では、年代が高くなるにつれて保守的にも進歩的にも両方にとらえる者も増加していく傾向にあった。

#### 4. 性の遭遇場面とその対応

実際の臨床の場で性の遭遇場面に関し尋ねた結果が、表5である。表5の「性的欲求を表現している場面に出会ったことがある」者は、全体で161名(64.7%)であった。この時の気持ちは(複数回答)、“驚いた”36名(22.4%)、“戸惑った”53名(32.9%)、“当然と思った”58名(36.0%)、“嫌悪を感じた”16名(9.9%)、“怒りを感じた”4名(2.5%)であった。「性的な事柄が話題となったことがある」者は、181名(72.7%)で、その時の気持ちは“当然と思った”130名(71.8%)、“戸惑った”42名(23.2%)、

“驚いた”13名(7.2%)、“嫌悪を感じた”5名(2.8%)、“怒りを感じた”1名(0.6%)であった。「診察の介助時(又は検査時)に自分のほうが羞恥心を感じたことがある」者は、103名(41.4%)で、この時の気持ちは、“当然と思った”47名(45.6%)、“戸惑った”44名(42.7%)、“驚いた”12名(11.7%)、“嫌悪を感じた”4名(3.9%)、“いらいらした”1名(1.0%)であった。「性の不安や悩みを相談されたことがある」者は、108名(43.4%)であり、その時の気持ちは“当然と思った”91名(84.3%)、“戸惑った”14名(13.0%)、“驚いた”3名(2.8%)であった。

次にこの性の遭遇場面での対応についてみる。表5から「性的欲求を表現している場面に出会ったことがある」場面では、個人的対応123名(76.4%)、カンファレンス28名(17.4%)、受け止めず11名(6.8%)であった。「性的な事柄が話題となったことがある」場面では、個人的対応133名(73.5%)、カンファレンス36名(19.9%)、受け止めず5名(2.8%)であった。「診察の介助時(又は検査時)に自分のほうが羞恥心を感じたことがある」場面では、個人的対応92名(89.3%)がほとんどであった。「性の不安や悩みを相談されたことがある」場面では、個人的対応69名(63.9%)、カンファレンス27名(25.0%)、受け止めず2名(1.9%)であった。これらから4つの性の遭遇場面において個人的対応が最も多く、「性の不安や悩みを相談されたことがある」場面では、1/4の人がカンファレンスでも対応をしていた。

表5 4つの性の遭遇場面別のその時の気持ちと対応

性の遭遇場面		性的欲求を表現している 161(64.7)	性的な事柄が話題となった 181(72.7)	診察の介助時(又は検査時)に自分のほうが羞恥心を感じた 103(41.4)	性の不安や悩みを相談された 108(43.4)
その時の気持ち	驚いた	36(22.4)	13(7.2)	12(11.7)	3(2.8)
	戸惑った	53(32.9)	42(23.2)	44(42.7)	14(13.0)
	嫌悪を感じた	16(9.9)	5(2.8)	4(3.9)	0
	怒りを感じた	4(2.5)	1(0.6)	0	0
	人間として当然	58(36.0)	130(71.8)	47(45.6)	91(84.3)
	いらいらした	0	0	1(1.0)	0
	その他	15(9.3)	7(3.9)	9(8.7)	5(4.6)
対応	個人的	123(76.4)	133(73.5)	92(89.3)	69(63.9)
	カンファレンス	28(17.4)	36(19.9)	1(1.0)	27(25.0)
	受け止めず	11(6.8)	5(2.8)	0	2(1.9)
	その他	5(3.1)	15(8.3)	ex8(7.8)	- 16(14.8)

性の遭遇場面についての気持ちを“肯定的(当然と思った)”, “否定的(嫌悪を感じた, 怒りを感じた, いらいらした)”, “中立的(驚いた, 戸惑った)”, “肯定否定両方”という4つに分類し4つの遭遇場面について検討した(図3)。

「性の不安や悩みを相談されたことがある」場面では、肯定的な気持ちの者が84.3%, 「性的な事柄が話題となったことがある」場面では71.8%, 「診察の介助時(又は検査時)に自分のほうが羞恥心を感じたことがある」場面では44.7%であった。「性的欲求を表現している

場面に出会ったことがある」場面では中立的41.6%、肯定的34.8%と、この場面だけは中立的な気持ちのほうが高かった。また、「性の不安や悩みを相談されたことがある」場面では、否定的な気持ちになった者はいなかった。しかしそれ以外の3つの場面「性的欲求を表現している場面に出会ったことがある」、「性的な事柄が話題になったことがある」、「診察の介助時（又は検査時）に自分のほうが羞恥心を感じたことがある」

「性的な事柄が話題となったことがある」、「診察の介助時（又は検査時）に自分のほうが羞恥心を感じたことがある」では、否定的な気持ちになった者がそれぞれ11.2%、5.5%、3.9%みられた。

次に4つの性の遭遇場面について年代別に検討した。それを表したのが図4である。「性の不安や悩み

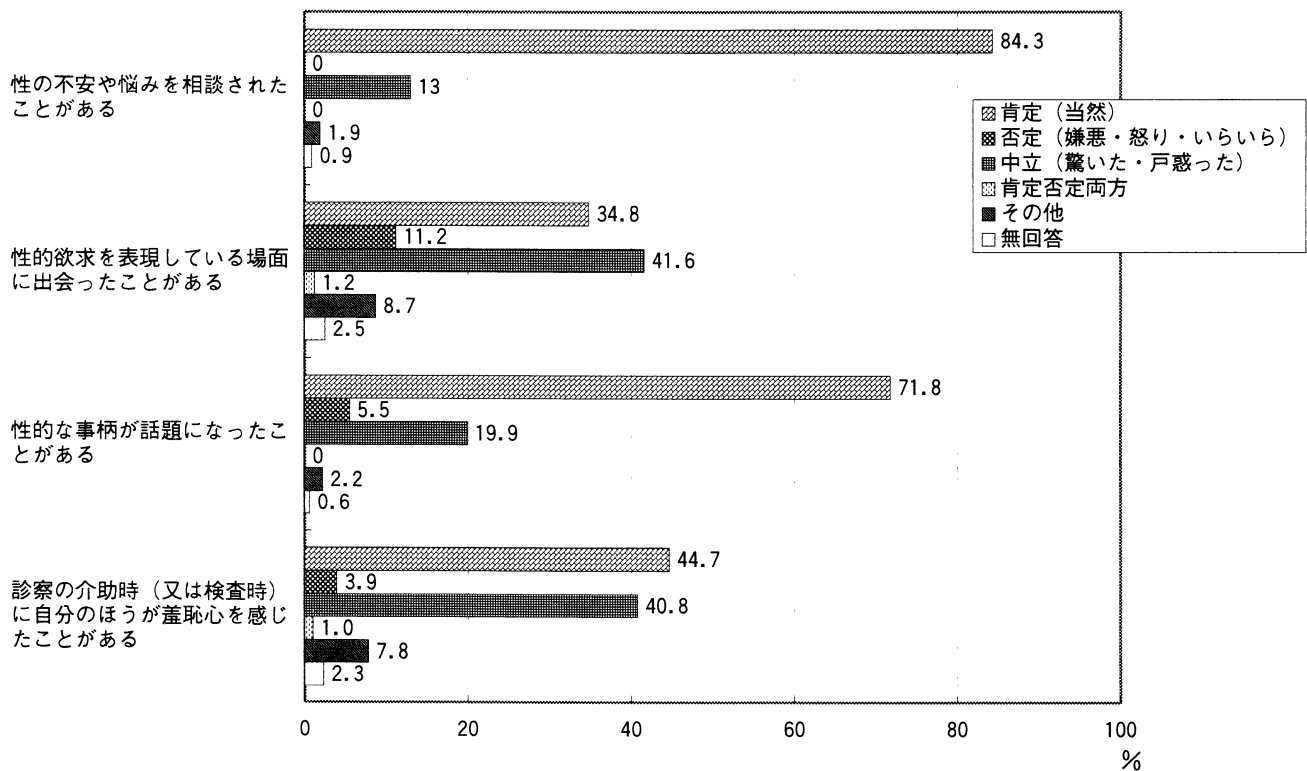


図3 4つの性の遭遇場面についての気持ち

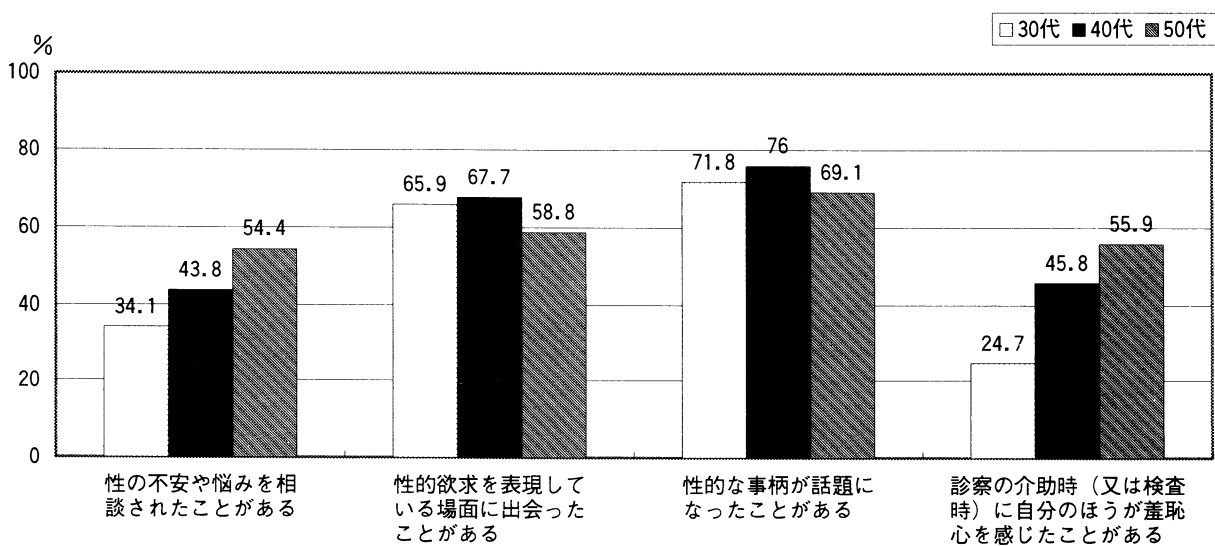


図4 年代別にみた性の遭遇場面

を相談されたことがある」と「診察の介助時(又は検査時)に自分のほうが羞恥心を感じたことがある」という場面では、50代が最も多く50%以上であった。この2つの場面では、年代が高くなるにつれて右上がりになっている。「性的欲求を表現している場面に出会ったことがある」と「性的な事柄が話題になったことがある」場面では、各年代とも50%以上の高い割合で、ほぼ同程度であった。

このうち性のとらえ方に影響すると思われる「性的な事柄が話題になったことがある」場面について検討した。なかでも結婚歴の有無、高齢者との同居の有無、高齢者との交流、「性一般」との関連について肯定的にとらえた各年代について検討した。その結果、各年代とも結婚歴がある者、高齢者と同居している者、高齢者との交流が仕事あるいはそれ以外でもある者、「性一般」のとらえ方も進歩的な者のほうが有意に肯定的にとらえているという結果になった。

### III. 考察

ここでは、本論文の目的である性のとらえ方と性の臨床場面での対応を中心に考察する。

#### 1. 性のとらえ方

「自分自身の性」と「高齢者の性」の両方のとらえ方の上位4項目(「愛のための性」、「親密さのための性」、「コミュニケーションのための性」、「夫婦関係のための性」)についてみると、「愛のための性」と「夫婦関係のための性」では、「高齢者の性」よりは「自分自身の性」としてとらえられ、「親密さのための性」と「コミュニケーションのための性」では、「高齢者の性」としてとらえられている傾向であった。これは、「自分自身の性」と「高齢者の性」において性のとらえ方の質的相違を示していると考ええる。それを顕著にあらわしているのは「快楽としての性」のとらえ方である。表3より「快楽としての性」が「高齢者の性」より「自分自身の性」としてとらえられていることは、「高齢者の性」が快楽とは結びつけ難いことをあらわしている。「快楽としての性」のとらえ方は、性欲の身体的事柄に大きくかわることであり、高齢者に対するイメージが身体的マイナスイメージが多かったこともその要因になっていると考ええる。

また、年代別に「自分自身の性」「高齢者の性」のとらえ方について検討したが、「高齢者の性」のとらえ

方に関して年代による差がなかった。これは、「高齢者の性」に関してはある一定のとらえ方があることが推察される。

次に「性一般」のとらえ方である。若い年代ほど進歩的にとらえ、30代より40代、40代より50代と年代が高くなるにしたがって保守的にとらえていた。これは、年代が高いほど性に対する日本の伝統的文化の影響を強く受けており、当然の結果であろうと考える。

しかし、一方で進歩的にも保守的にもとらえている者が、年代が高くなるにつれて増加していた。これは、若い世代がステレオタイプの物事をとらえる傾向にあること、他方、年代が増すにつれて経験と知識の積み重ねによって、伝統的文化の影響を受けながらも性のとらえ方に柔軟な幅がでてくることのあらわれと考えることができる。

#### 2. 性の遭遇場面とその対応について

4つの性の遭遇場面の結果から「性的欲求を表現している」場面と「性的な事柄が話題になった」場面に、6割から7割以上の者が遭遇しなんらかの対応をしている。これは我々の当初の予想をはるかに超えて多いものであった。それに比べて「性の不安や悩みを相談された」場面や「診察の介助時に自分のほうが羞恥心を感じた」場面での遭遇は4割であった。前者2つの場面の遭遇は、状況的に予測しにくく偶然あるいは突然であることが多い。この、性的欲求を表現しているとか、性的な事柄が話題になるということは、遭遇する者が性的欲求あるいは性的な事柄だととらえてはじめて「性的場面」としてとらえられると考える。それに対し後者2つは、性の不安や相談、あるいは診察という状況や機会、場面がはっきりとしている。このように性の遭遇場面の状況において違いはみられるが、性のとらえ方について今回は具体的な内容を調査しておらず、遭遇場面の状況的違いだけで性の詳細について検討することには限界があった。

また、4つの性の遭遇場面の年代別の結果から、性の不安や悩みは若い年代より年代の高いほうに相談しやすいのは自然であり、診察時や検査時に羞恥心を感じるのも年代の高いほうが、閉鎖的な性の伝統に影響されているためと考えられる。

これらの遭遇場面での気持ちは、「人間として当然」として肯定的に受け止めている者が一番多かつ



た。これは、「自分自身の性」「高齢者の性」「性一般」の受け止め方にさまざまな違いがあれども、教育者としての自覚によるものと考えられる。また、次に多かった気持ちとして“驚いた”“戸惑った”がある。これは、性的欲求の場面や診察時の自分自身の羞恥心の場面で高い割合を示している。やはり性的欲求の場面に出会ったり、診察時の自分自身の羞恥心に驚き戸惑うことは、自然な気持ちと考える。

次に4つの性の遭遇場面で最も双方の意思や感情、とらえ方にかかわる「性的な事柄が話題になったことがある」場面について各年代別に結婚歴の有無、高齢者との同居の有無・交流、「性一般」との関係を見た結果から、結婚歴あり、高齢者との同居あり、高齢者との交流あり、進歩的な「性一般」のとらえ方が、性を肯定的に受け止める一要因であると考えられる。

また、その性的場面の対処方法は、個人的対応がほとんどであった。これは、性にかかわることが一般に人に知られたいくない、公にはふれられたいくないことであるため、性的場面の対処方法が個人的対応をとらざるをえない、あるいは個人的対応でしか対処できない、ということを示すものとしてとらえられる。さらに、性の問題は、個人の「性」のとらえ方に大きく左右される一面を持っていることも否定し難い事実である。それゆえ、教員個々人の「性」の正しい知識、見識が要求されてくる。

このようにみると、セクシュアリティの看護の充実には、看護教育の現場にいる教員という立場から教員個々人が「性」に対する正しい知識、見識を持ち、それを実際の教育現場で学生や臨床に普及、教育していくことが重要となる。

今回の研究では、教員の性の遭遇場面での対応のうち個人的対応をしている者が多かったが、その個人的対応の具体的内容についての設問がなかったことで十分な分析が加えられず、今後の課題として残った。

#### IV. 結語

本論文では、看護基礎教育担当教員の性のとらえかたと性の臨床場面での対応に関して、教育にあたっている者の性のとらえ方と対応の実態を明らかにすることを目的とした。その結果、以下のことが明らかになった。

①「自分自身の性」と「高齢者の性」のとらえ方は、

“愛のための性”、“親密さのための性”、“コミュニケーションのための性”、“夫婦関係のための性”と上位4項目は同じで項目に差はなかった。しかし、“愛のための性”、“夫婦関係のための性”は「自分自身の性」のほうに、“親密さのための性”、“コミュニケーションのための性”は、「高齢者の性」としてとらえられる傾向にあり、性へのとらえ方の質的相違がみられた。

②「性一般」のとらえ方は、若い年代ほど進歩的にとらえ30代より40代、40代より50代と年齢が高くなるにしたがって保守的にとらえていた。しかし、一方で進歩的にも保守的にもとらえている者が、年代が高くなるにつれて増加していたことは、日本の伝統的文化の影響を受けながらも、経験と知識の積み重ねによって性のとらえ方に柔軟な幅がでている表われといえる。

③双方の意思や感情、とらえ方にかかわる「性的な事柄が話題となったことがある」場面では、結婚歴、高齢者との同居・交流、進歩的な「性一般」のとらえ方が肯定的に受け止める要因となっていることがうかがえた。

④性的遭遇場面の対処方法は、個人的対応がほとんどであり、個人的対応の側面の重要性を示すといえる。そのため、教員個々人の性の正しい知識、見識が要求されていることが示唆された。ここでいう性の正しい知識、見識とは、性は人間だれにもある基本的な欲求であり、生き続けている限り存在するものだということを示している。

#### おわりに

人間の性：セクシュアリティとは、一面的ではなく多面的であり、またその人の生きた時代背景、成育歴等によって様々な影響を受けている。人間をトータルに理解するためにもセクシュアリティの尊重はかせないものであり、看護教育において豊かなセクシュアリティに関する教育が求められている。そのために教員個々が自分自身をよく知ること、すなわち性の遭遇場面での感情、行動を振り返り分析することが重要となってくると考える。

#### 引用・参考文献

- 1) 島村澄江, 秋山啓子, 水戸美津子他:「高齢者の性」に関する研究 (2) 高齢者の性に関する研究の動向と課題, 新潟県立看護短期大学紀要, 2, 4, 1996

- 2) 水戸美津子, 西脇洋子, 渡邊典子他:「高齢者の性」に関する研究(3)ー看護・介護職員の高齢者の性に関する意識調査の分析ー, 新潟県立看護短期大学紀要, 3, 27-40, 1997
- 3) 大谷真千子:カリキュラム改正と性, 月刊ナーシング, 9(8), 34-35, 1989
- 4) 高村寿子:看護教育の中のセクシュアリティ教育の現状ー誰が何をどのように教えているのかー, 看護技術, 増39(6), 22-27, 1993
- 5) 高村寿子, 松本鈴子, 松本清一:看護教育における「性」に関する教育の現状と今後の課題, 看護教育, 32(10), 731-736, 1992
- 6) 大谷真千子:看護学における性, 成人看護学のねらいと内容について, 看護実践の科学, 59-64, 1990
- 7) 河野友信:性の臨床, 医学書院, 1989
- 8) 川野雅資:特集 患者の性と生 患者の性を考える時に考慮しておきたいこと, 看護, 42(9), 59, 1990
- 9) 宮原忍:特集 性科学の水準ー第12回世界性科学学会の業績から セクソロジーとは何か, 助産婦雑誌, 49(12), 12-19, 1995
- 10) 渡辺純一:特集 看護とセクシュアリティ 性の看護の意識と臨床での実状, 看護管理, 5(5), 298-302, 1995